研究ノート

# 中高生の介護の仕事への関心、就労意識と保護者の介護イメージ
## ―K 地域での介護の仕事魅力アップのためのモデル事業より―

# Junior High and High School Students' Interest in Nursing Care Work, Work Consciousness, and Parents' Image of Nursing Care
## ―From a Model Project to Enhance the Attractiveness of Nursing Care Work in the K Area－

中島　眞由美、白井　聡美
NAKAJIMA Mayumi, SHIRAI Satomi

【要約】

人口減少・超高齢社会の中で介護人材の確保は喫緊の課題であり、令和 3 年度より短大の所在する K 地域を対象に 3 年間の計画で包括的プログラムに取組んでいる。本稿では、K 地域にある中高生及び保護者を対象に実施した意識調査をもとに今後の課題を検討した。

意識調査からは、中高生の介護の仕事への関心や就労意識には、「身近に介護を受けている人の存在」「身のまわりの世話の経験」「身近に介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設での職場体験の有無」で有意な差があった。また、「やりがいがある」「資格や専門性がいかせる」「将来性がある」と介護の仕事のイメージが肯定的な保護者は子どもが介護の仕事を希望した場合に勧めることがわかった。中高生の介護の仕事への関心に影響を及ぼしている要因は身近に介護の仕事をしている人の存在等があげられたことから、介護の仕事に触れ身近に感じることができる環境づくりが必要と考えられる。

キーワード　中高生、保護者、介護の仕事、魅力アップ、介護のイメージ

## Ⅰ　研究の背景

### 1　介護人材確保をめぐる動向

国では、少子高齢化の進行等により、労働力人口が減少することから、国民のニーズに的確に対応していく福祉・介護人材を安定的に確保していくために、平成 19 年に「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本的な指針」を見直した。

その指針の中で、「福祉・介護サービス分野において、将来にわたって安定的に人材を確保していくためには、例えば、主に若年層に入職して正規雇用で長期間にわたり就労する者、ライフサイクルに対応した多様な雇用形態で就労を希望する者など、様々な就労形態の従事者がいることを念頭に置きつつ、人材を確保していくために必要な対策を重層的に講じていくことが必要である」と述べ、人材確保の方策として、(1)労働環境の整備の推進等、(2)キャリアアップのしくみの構築、(3)福祉・介護サービスの周知・理解、(4)潜在的有資格者等の参



なかじままゆみ（健康福祉学科）

入の促進等、(5)多様な人材の参入・参加の促進の５つの方策をあげ、経営者、関係団体等並びに国及び地方公共団体がそれぞれの役割を果たすことが重要と述べている。その後、厚生労働省では、介護人材確保の目指す姿として～「まんじゅう型」から「富士山型」へ～とし、総合的な介護人材対策として、介護人材の処遇改善、多様な人材の確保・育成、離職防止・定着促進・生産性向上、介護職の魅力の向上、外国人材の受入れ環境整備を掲げてきた。

2020 年に厚生労働省が第 8 期介護保険事業計画策定にあわせて行った推計では 2023 年度には約 22 万人、2025 年には 32 万人、2040 年には 69 万人不足すると推計されている。

## ２　富山県における介護人材確保の現状と取組

### (1)介護人材確保の現状と取組

富山県の令和 4 年 11 月の有効求人倍率は、全職種 1.57 倍に対し介護関連職種は 4.54 倍になっている。一方で、令和 2 年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、県内の介護職の離職率は令和元年 10.5 %に対し令和 2 年 11.3%と増加し、介護福祉士養成校の入学者数は、減少に歯止めがかからず、令和元年 98 人（定員の 61.3%）であった入学者は令和 2 年 81 人（50.6%）、令和 3 年 72 人（45.0%）と減少した。

第 8 期介護保険事業計画における需要見込みでは、第 7 期計画では 2025 年に約 22,000 人と推計されていたものが約 21,000 人に修正され、毎年必要とされる介護人材も約 330 人の増に下方修正されたが、この人数を確保することが非常に厳しい状況となっている。

このような中で、富山県では「とやま福祉人材確保・応援プロジェクト事業」に取組んでおり、令和 4 年度は介護職員処遇改善の費用を除き 1 億 8228 万円の予算が計上されている。「とやま福祉人材確保・応援プロジェクト事業」は、ネットワークの構築を基盤に、①掘り起し、②教育・養成、③確保、④定着の 4 つの柱で推進されている。

①掘り起しでは、若者や一般の人に福祉の魅力をアピールし福祉分野への参入促進、養成校の志願者数の増加、②教育・養成では介護福祉士等の養成、介護福祉士等の資格取得を目指す者に対する支援、③確保では求人と求職者のマッチング支援、潜在的な介護人材の現場復帰支援、就業支援、④定着では現任職員のレベルアップ、職場環境の改善・向上、離職防止、職員の職場への定着を目指している。

### (2)地域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業

筒井は、地域共生社会を推進していくには、地域を基盤としたケアと統合ケアが大切だと述べている。人口減少・超高齢社会の中で労働人口が著しく減少していくことから、これまで以上に多様な介護人材の確保が必要となっている。介護人材を確保していくにも、より住民に身近な市町村が果たす役割が大きいと考え、介護人材確保のためのプログラムを 1 本にまとめ、令和 3 年度から 3 年間の計画で、「地域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業」に取組むことにした。この事業は、①地域住民等への介護の仕事の理解促進事業と②介護に関する入門的研修の実施等からマッチングまでの一体的支援研究事業の２つの柱があり、令和 3 年度を準備の年、令和 4 年度を実施の年、令和 5 年度を評価の年と位置付け、

地域住民や事業者との対話を重視しながら展開している。中高生及び保護者の介護に関する意識調査は、①地域住民等への介護の理解促進事業に位置づいている。

## 3　中高生の介護の仕事に関する意識

先行研究及び調査では、介護の仕事のみに焦点をあてた研究及び調査と、介護だけでなく、福祉・介護と幅を広げて研究及び調査したものがある。広島県社会福祉協議会が平成 27 年に県内の高校 1・2 年生に行った「福祉・介護の仕事に関する意識調査」では、将来の進路として福祉・介護の仕事を「検討している」と答えた生徒は 10.0%、「少し検討している」と答えた生徒は 12.8%であった。福祉・介護とした場合、介護の仕事だけでなく保育の仕事なども含んでいることから、全般的に進路として考えている人の割合が高い傾向があった。「身近に福祉や介護の仕事をしている（いた）人がいる」生徒の方がいない生徒に比べて「検討している」人の割合が高くなっていた。また、「職場体験等をしている」生徒の方がしていない生徒に比べて「検討している」人の割合が高くなっていた。

介護の仕事に焦点をあてた藤沢の調査では、介護の仕事に関心があると答えた生徒は 40.0%、関心をもったきっかけは「高齢者や障害者が身近にいたこと」39.8%、「福祉や介護の仕事をしている家族や知人がいたこと」37.4%であった。介護の仕事をしたいと思うと答えた生徒は 22.2%、したいと思わない生徒は 54.9%、希望しない理由は「他に就きたい仕事がある」51.7%、「介護は自分に向かない」43.8%、「肉体的・精神的に大変そう」37.5%であった。先行研究及び調査をもとに白井がまとめた結果は図 1 のとおりである（白井 2021）。

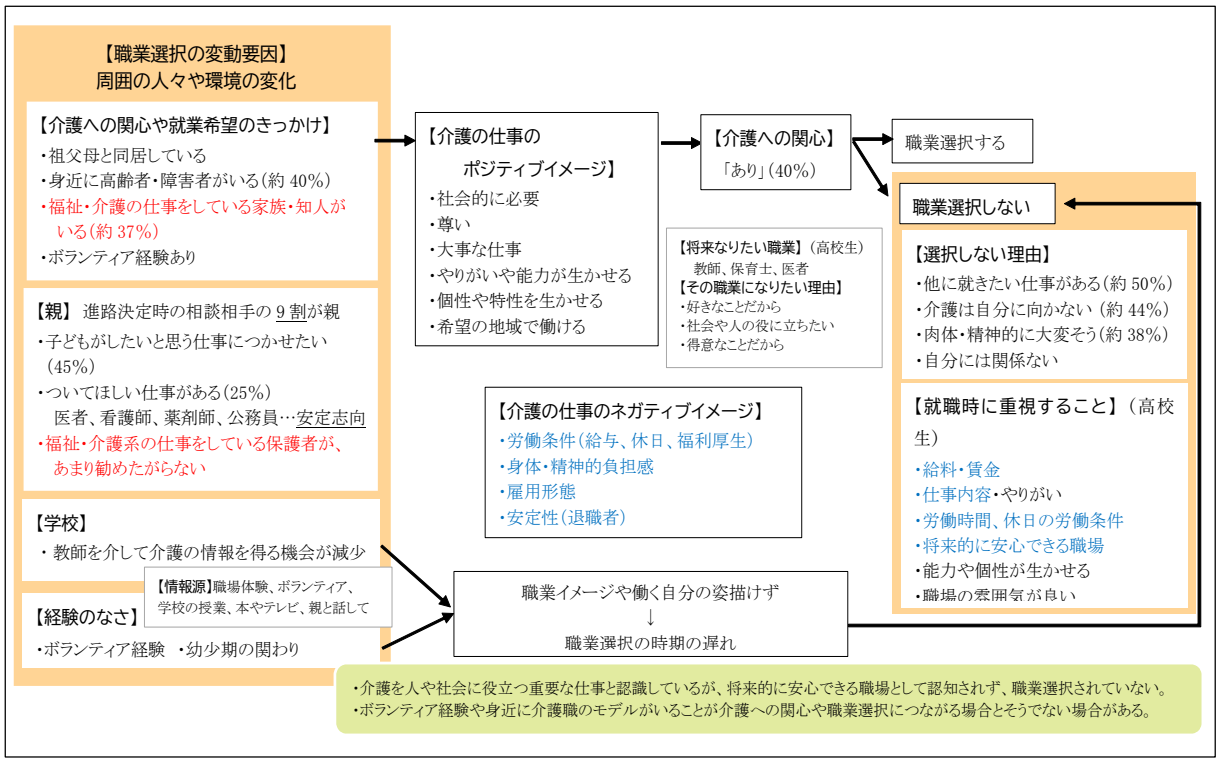


図 1　中高生の福祉・介護の意識調査先行研究まとめ（2021 白井作成）

## Ⅱ　本研究の目的

介護人材確保が喫緊の課題である中で、地域を基盤とした包括的なアプローチを効果的に行うために K 地域にある中学校や高校に通う生徒及び保護者の意識を把握し、課題を検討することである。

## Ⅲ　研究方法

**1　調査対象**　K 地域にある中学校 1 校（市立）、高校 2 校（県立 1 校、私立 1 校）に通う生徒とその保護者

**2　調査期間**　令和 3 年 11 月 20 日～令和 3 年 12 月 10 日

**3　調査方法**　質問紙配布による量的調査

**(1) 質問紙の作成と調査協力依頼**

①本学内の高校の校長経験者２名と調査項目や実施方法等を検討。

当初、回答方法は Google フォームのみを考えていたが、郵送での回答も受け入れる配慮が必要との助言を受け、郵送での回答も受けることとした。

②県教育委員会県立学校課、市教育委員会学校教育課に出向き説明、文言等修正を行った。

③調査実施に向け、中学校、高校の校長に対面で説明し、調査協力の同意を得た。

④中学校では、生徒向けの調査の回答を時間内に実施いただけることとなり、スムーズな調査となるよう文書表現や調査方法、日程について先生方と複数回検討した。

⑤高校は、期末考査の時期を配慮して生徒に配布していただくこととなった。

**(2)質問紙配布による生徒及び保護者への調査**

①学校を通じて生徒に調査用紙、保護者への依頼文書を封筒に入れて配布した。

②調査用紙は生徒と保護者が対になるようにあらかじめ通し番号をつけた。

③調査用紙配布にあたっては、学校の教員より趣旨を説明していただき、調査用紙や文書にはアンケートにアクセスできる QR コードを掲載、各自スマートフォンやタブレットパソコンで読み取り、回答してもらった。

④スマートフォンやタブレットでの回答が難しい生徒や保護者については、質問紙に直接記入いただき、同封の封筒にいれ学校経由で提出いただくか、郵送いただいた。

**(3)調査結果の分析**

①中高生及び保護者の単純集計を行い調査報告書にまとめる。

②クロス集計、有意差検定を行い分析する。

③中高生及び保護者両方の回答があった者を１つにまとめ、親の要因が子の介護の仕事への関心及び就労意識に影響を及ぼしているか分析する。

**4　倫理的配慮**

調査は無記名とし個人情報は取り扱わず、Google フォームの回答もメールアドレス等は取得しなかった。本調査は任意であり、調査に協力しなかったからといって不利益は被らないことを依頼文、調査用紙に明記した。本調査は、富山短期大学倫理委員会の承認を得た。

## Ⅳ　調査結果

### 1　回収数及び回収率

回収数及び回収率は表 1 のとおりである。

中学生で回収率が高かったのは学校のホームルームの時間を活用したことによるものと推察される。

表 1　回収数及び回収率

| | 中学生 | | 高校生 | |
|---|---|---|---|---|
| | 生徒 | 保護者 | 生徒 | 保護者 |
| 配　布　数 | 562 | 562 | 1401 | 1401 |
| 回　収　数 | 561 | 333 | 870 | 658 |
| 回収率(%) | 99.8 | 59.3 | 62.1 | 47.0 |

### 2　中高生の意識調査結果

**(1)祖父母との同居、身のまわりで介護を受けている（いた）人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設等での職場体験等の有無、介護の仕事への関心（単純集計）**

①「祖父母と同居している」と答えた中学生は 34.4%で、高校生は 31.6%であった。

②「身のまわりで介護を受けている（いた）人（以下「身のまわりに介護を受けている人」）がいる」と答えた中学生は 43.7%（家族や親せき 38.9%、知り合い 4.8%）で、高校生は 45.8%（家族や親せき 41.4%、知り合い 4.4%）であった。

③「誰かの身のまわりのお世話をしたことがある」と答えた中学生は 33.5%で、高校生は 26.7%であった。

④「家族や身近な人で介護関係の仕事をしている人がいる」と答えた中学生は 22.1%で、高校生は 26.4%であった。

⑤「福祉・介護施設等で職場体験・ボランティア体験・交流行事・職場見学（社会見学）などに参加した経験がある」と答えた中学生は 50.1%で、高校生は 53.1%であった。

⑥介護の仕事への関心

中学生では「とてもある」と答えた生徒は 3.0%、「ある」14.8%、「どちらともいえない」41.4%、「あまりない」27.3%、「まったくない」13.5%で、高校生では「とてもある」と答えた生徒は 2.2%、「ある」15.1%、「どちらともいえない」31.8%、「あまりない」32.9%、「まったくない」18.0%であった。

⑦介護の仕事に関心をもったきっかけ

中学生では「高齢者・障害者が身近にいた」が一番多く 39.0%、次いで「福祉職・介護職の人が身近にいた」29.0%、「ボランティアに参加して」23.0%であった。高校生では「高齢者・障害者が身近にいた」が一番多く 32.7%、次いで「ボランティアに参加して」27.3%、「新聞・テレビ・雑誌等を通して」24.0%であった。

**(2) 祖父母との同居、身のまわりに介護を受けている人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設等での職場体験等の有無と介護の仕事への関心（クロス集計）（表２）**

中学生では、「祖父母と同居している」と答えた人の方が介護の仕事に関心が「ない」（「あまりない」＋「ない」）と答えた人の割合が高く、「身のまわりの世話の経験があ

る」「身近に介護の仕事をしている人がいる」「福祉・介護施設等での職場体験等がある」と答えた人の方が介護の仕事に関心が「ある」(「とてもある」＋「ある」) と答えた人の割合が高い傾向があった。

高校生では、「祖父母と同居している」「身のまわりの世話の経験がある」「身近に介護の仕事をしている人がいる」「福祉・介護施設等での職場体験等がある」と答えた人の方が、介護の仕事に関心が「ある」(「とてもある」＋「ある」) と答えた人の割合が高い傾向があった。

**表２　祖父母との同居、身のまわりに介護を受けている人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設での職場体験等の有無と介護の仕事への関心**　　単位（%）

| | | 中学生 | | | | | | 高校生 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | n | とてもある | ある | どちらともいえない | あまりない | ない | n | とてもある | ある | どちらともいえない | あまりない | ない |
| 祖父母との同居 | ある | 193 | 5.2 | 11.9 | 35.2 | 31.1 | 16.6 | 275 | 2.5 | 13.8 | 33.1 | 33.8 | 16.7 |
| | ない | 368 | 1.9 | 16.3 | 44.6 | 25.3 | 12.0 | 595 | 2.0 | 15.6 | 31.3 | 32.4 | 18.7 |
| 身のまわりで介護をうけている人の存在 | いる | 245 | 3.7 | 18.8 | 39.2 | 27.3 | 11.0 | 398 | 2.5 | 18.8 | 33.2 | 32.7 | 12.8 |
| | いない | 166 | 1.8 | 12.7 | 38.0 | 28.9 | 18.7 | 360 | 2.2 | 12.2 | 29.7 | 32.8 | 23.1 |
| | わからない | 150 | 3.3 | 10.7 | 48.7 | 25.3 | 12.0 | 112 | 0.9 | 10.7 | 33.9 | 33.9 | 20.5 |
| 身のまわりの世話の経験 | ある | 188 | 5.9 | 21.3 | 39.4 | 24.5 | 9.0 | 232 | 3.0 | 19.8 | 36.2 | 30.6 | 10.3 |
| | ない | 373 | 1.6 | 11.5 | 42.4 | 28.7 | 15.8 | 638 | 1.9 | 13.3 | 30.3 | 33.7 | 20.8 |
| 介護の仕事をしている人の存在 | いる | 124 | 5.6 | 25.0 | 33.1 | 25.8 | 10.5 | 230 | 3.5 | 22.2 | 35.2 | 25.2 | 13.9 |
| | いない | 338 | 1.2 | 10.4 | 41.7 | 31.1 | 15.7 | 564 | 2.0 | 12.8 | 30.1 | 35.3 | 19.9 |
| | わからない | 99 | 6.1 | 17.2 | 50.5 | 16.2 | 10.1 | 76 | 0.0 | 10.5 | 34.2 | 38.2 | 17.1 |
| 福祉・介護施設等での体験 | ある | 281 | 3.6 | 17.4 | 39.5 | 26.7 | 12.8 | 462 | 3.2 | 21.0 | 31.2 | 30.1 | 14.5 |
| | ない | 280 | 2.5 | 12.1 | 43.2 | 27.9 | 14.3 | 408 | 1.0 | 8.3 | 32.6 | 36.0 | 22.1 |

### (3) 介護の仕事への就労意識と祖父母との同居、身のまわりで介護を受けている人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設等での職場体験等

①介護の仕事への就労意識

中学生では、介護の仕事をしてみたいと「強く思う」と答えた生徒は 0.9%、「そう思う」8.6%、「どちらともいえない」36.5%、「あまりそう思わない」37.4%、「全くそう思わない」16.6%であった。

高校生では「強く思う」と答えた生徒は 1.1%、「そう思う」6.0%、「どちらともいえない」30.0%、「あまりそう思わない」39.1%、「全くそう思わない」23.8%であった。

②介護の仕事をしてみたいと思う理由（表３）

中学生では「人や社会の役に立つ仕事だと思うから」が一番多く 81.1%、次いで「やりがいがあると思うから」52.8%、「人と関わるのが好きだから」34.0%であった。

高校生では、「人や社会の役に立つ仕事だと思うから」が一番多く 64.5%、次いで「や

りがいがあると思うから」51.6%、「人とか関わるのが好きだから」46.8%であった。

③介護の仕事をしてみたくないと思う理由（表３）

中学生では「自分に向いていないと感じるから」が一番多く 59.7%、次いで「ほかにつきたい仕事があるから」53.8%、「よくわからない」32.7%であった。

高校生では、「ほかにつきたい仕事があるから」が一番多く 56.3%、次いで「自分に向いていないと感じるから」51.4%、「労働条件がよくないから」16.5%であった。

表３ 介護の仕事をしてみたい理由、してみたくない理由　単位（%）

| | してみたいと思う理由 | | してみたくないと思う理由 | |
|---|---|---|---|---|
| 中学生 | 1人や社会の役に立つ仕事だと思うから | 81.1 | 1 自分には向いていないと感じるから | 59.7 |
| | 2やりがいのある仕事だと思うから | 52.8 | 2ほかにつきたい仕事があるから | 53.8 |
| | 3人と関わるのが好きだから | 34.0 | 3よくわからないから | 32.7 |
| | 4自分の個性や適性をいかせるから | 20.0 | 4将来性をあまり感じないから | 17.8 |
| | 5まわりに介護の仕事をしている人がいるから | 13.2 | 5労働条件がよくないから | 15.5 |
| 高校生 | 1人や社会の役に立つ仕事だと思うから | 64.5 | 1 ほかにつきたい仕事があるから | 56.3 |
| | 2やりがいのある仕事だと思うから | 51.6 | 2自分には向いていないと感じるから | 51.4 |
| | 3人と関わるのが好きだから | 46.8 | 3労働条件がよくないから | 16.5 |
| | 4将来性がある仕事だから | 17.7 | 4人と関わるのがあまり好きでないから | 15.0 |
| | 5 国家資格や専門性をいかせる仕事だから | 14.5 | 5よくわからないから | 11.0 |

④祖父母との同居、身のまわりで介護を受けている人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設等での職場体験等の有無と介護の仕事への就労意識（クロス集計）（表４）

中学生では「祖父母と同居している」と答えた生徒の方が介護の仕事をしたいと「思わない」(「あまり思わない」＋「思わない」)と答えた割合が高い傾向があった。

表４ 祖父母との同居、介護の仕事をしている人の存在、身のまわりに介護を受けている人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設等での職場体験等の有無と介護の仕事への就労意識　単位（%）

| | | 中学生 | | | | | | 高校生 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | n | 強く思う | 思う | どちらともいえない | あまり思わない | 思わない | n | 強く思う | 思う | どちらともいえない | あまり思わない | 思わない |
| 祖父母との同居 | ある | 193 | 0.5 | 8.3 | 31.1 | 42.0 | 18.1 | 275 | 0.7 | 4.7 | 33.1 | 39.3 | 22.2 |
| | ない | 368 | 1.1 | 8.7 | 39.4 | 35.1 | 15.8 | 595 | 1.3 | 6.6 | 28.6 | 39.0 | 24.5 |
| 身のまわりで介護をうけている人の存在 | いる | 245 | 0.8 | 13.1 | 33.9 | 36.7 | 15.5 | 398 | 1.5 | 8.8 | 31.2 | 39.7 | 18.8 |
| | いない | 166 | 0.6 | 5.4 | 34.9 | 40.4 | 18.7 | 360 | 0.8 | 3.6 | 27.8 | 40.3 | 27.5 |
| | わからない | 150 | 1.3 | 4.7 | 42.7 | 35.3 | 16.0 | 112 | 0.9 | 3.6 | 33.0 | 33.0 | 29.5 |
| 身のまわりの世話の経験 | ある | 188 | 1.6 | 12.2 | 42.6 | 34.0 | 9.6 | 232 | 2.2 | 8.6 | 37.9 | 33.6 | 17.7 |
| | ない | 373 | 0.5 | 6.7 | 33.5 | 39.1 | 20.1 | 638 | 0.8 | 5.0 | 27.1 | 41.1 | 26.0 |
| 介護の仕事をしている人の存在 | いる | 124 | 1.6 | 12.1 | 35.5 | 40.3 | 10.5 | 230 | 1.7 | 9.6 | 37.8 | 30.9 | 20.0 |
| | いない | 338 | 0.3 | 6.5 | 33.4 | 39.6 | 20.1 | 564 | 0.9 | 4.8 | 26.8 | 42.0 | 25.5 |
| | わからない | 99 | 2.0 | 11.1 | 48.5 | 26.3 | 12.1 | 76 | 1.3 | 3.9 | 30.3 | 42.1 | 22.4 |
| 福祉・介護施設等での職場体験等 | ある | 281 | 1.1 | 8.9 | 37.7 | 37.4 | 14.9 | 462 | 1.7 | 9.1 | 32.0 | 37.4 | 19.7 |
| | ない | 280 | 0.7 | 8.2 | 35.4 | 37.5 | 18.2 | 408 | 0.5 | 2.5 | 27.7 | 40.9 | 28.4 |

一方、「身のまわりの世話の経験がある」「身近に介護の仕事をしている人がいる」と答えた生徒の方が介護の仕事をしてみたいと「思う」(「強く思う」＋「思う」) と答えた割合が高い傾向があった。

高校生では、「身のまわりの世話の経験がある」「身近に介護の仕事をしている人がいる」「福祉・介護施設等での職場体験等がある」と答えた生徒の方が、介護の仕事をしてみたいと「思う」(「強く思う」＋「思う」) と答えた割合が高い傾向があった。

### (4)祖父母との同居、身のまわりで介護を受けている人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設等での職場体験等の有無と介護の仕事への関心及び介護の仕事への就労意識（表５）

介護の仕事への関心が「ある」(「とてもある」＋「ある」) と「それ以外」(「どちらともいえない」＋「あまりない」「ない」) の 2 群にわけ統計的に有意な差があるか $\chi^2$ 検定した結果は、表 5 のとおりである。

中学生では、「身のまわりで介護を受けている人」「身のまわりの世話の経験」「介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設等での職場体験等」のある生徒がない生徒に比べ介護の仕事への関心のある人の割合が統計的に有意に高かった。

高校生では、「身のまわりで介護を受けている人」「身のまわりの世話の経験」「介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設等での職場体験等」のある生徒がない生徒に比べ、介護の仕事への関心のある人の割合が統計的に有意に高かった。

表５ 祖父母との同居、身のまわりで介護を受けている人の存在、身のまわりの世話の経験、介護の仕事をしている人の存在、福祉・介護施設等での職場体験等の有無と介護の仕事への関心及び介護の仕事への就労意識

| | 介護への関心 | | | | 介護の仕事への就労意識 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 中学生 | | 高校生 | | 中学生 | | 高校生 | |
| | $\chi^2$ | P | $\chi^2$ | P | $\chi^2$ | P | $\chi^2$ | P |
| 祖父母との同居 | 0.106 | n.s | 0.217 | n.s | 0.140 | n.s | 1.698 | n.s |
| 介護を受けている人の存在 | 6.348 | * | 8.708 | ** | 9.978 | ** | 11.174 | *** |
| 身のまわりの世話の経験 | 16.704 | *** | 6.962 | ** | 6.348 | * | 6.366 | * |
| 介護の仕事をしている人の存在 | 17.861 | *** | 15.501 | *** | 3.380 | n.s | 8.246 | ** |
| 福祉・介護施設での職場体験等 | 3.865 | * | 33.841 | *** | 0.176 | n.s | 20.334 | *** |

注）*P＜.05,　**P＜.01,　***P＜.001,　n.s:not significant

同様に介護の仕事への就労意識についてみたところ、中学生では「身のまわりで介護を受けている人の存在」「身のまわりの世話の経験」のある生徒がない生徒に比べ介護の仕事への就労意識のある人の割合が統計的に有意に高かった。

高校では、「身のまわりで介護を受けている人の存在」「身のまわりの世話の経験」「介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設等での職場体験等」のある生徒がない生徒に比べ、介護の仕事への就労意識のある人の割合が統計的に有意に高かった。

### (5)介護の仕事への関心と介護の仕事への就労意識　（表６）

介護の仕事への関心と介護の仕事への就労意識との関係をみるために、介護の関心が「とてもある」に 5 点、「ある」4 点、「どちらでもない」3 点、「あまりない」2 点、「まったくない」1 点、介護の仕事をしてみたいと「強く思う」に 5 点、「思う」4 点、「どちらともいえない」3 点、「あまり思わない」2 点、「全くそう思わない」1 点を割り振り、相関関係をみたところ、「介護の仕事への関心」と「介護の仕事への就労意識」には 0.1%の水準で強い相関関係があった。

表６　介護の仕事への関心と就労意識

| | | 介護の仕事への関心 | 介護の仕事への就労意識 |
|---|---|---|---|
| 介護の仕事の関心 | Pearson の相関係数 | 1 | .756** |
| | 有意確率（両側） | | <.001 |
| | 度数 | 1431 | 1431 |
| 介護の仕事をしてみたい | Pearson の相関係数 | .756** | 1 |
| | 有意確率（両側） | <.001 | |
| | 度数 | 1431 | 1431 |

注）**P＜.01

### (6)進路に対する考え

進路を決めるとき中学生では、「進学や進路は自分自身で自由に決めたいが親の意見も聞きたい」と答えた生徒が一番多く 61.1%で「進学や進路は親の意見を重視したい」1.4%を合わせると 62.5%が親の意見を聞きたいと答えており、「進学や進路は自分自身で自由に決めたい」と答えた生徒は 37.3%であった。

高校生では、「進学や進路は自分自身で自由に決めたいが親の意見も聞きたい」と答えた生徒が一番多く 57.4%で、「進学や進路は親の意見を重視したい」1.0%を合わせると 58.4%が親の意見を聞きたいと答えており、「進学や進路は自分自身で自由に決めたい」と答えた生徒は 41.4%であった。

## ３　保護者の意識調査結果

### (1)身のまわりに介護を受けている人の存在、仕事以外での介護体験、身近に介護の仕事をしている人の存在

①身のまわりに介護を受けている人の存在

中学生の保護者では「家族や親族にいる（いた）」と答えた人は 65.2%で、「知り合いにいる（いた）」3.3%、「いない」30.6%、「わからない」0.9%であった。

高校生の保護者では、「家族や親族にいる（いた）」と答えた人は 64.3%で、「知り合いにいる（いた）」3.3%、「自分自身が受けている（いた）」0.2%、「いない」30.7%、「わからない」1.5%であった。

②仕事以外での介護の経験

中学生の保護者では、「現在している」と答えた人が 5.1%、「過去にしたことがある」

16.2%、「ない」78.7%であった。

高校生の保護者では、「現在している」と答えた人が 6.2%、「過去にしたことがある」16.6%、「ない」77.2%であった。

③身近に介護関係の仕事をしている（いた）人の存在

中学生の保護者では「友人・知人」と答えた人は一番多く 36.9%、次いで「親族」17.1%、「親・兄弟姉妹」11.1%、「自分」12.0%「いない」32.1%であった。

高校生の保護者では、「いない」と答えた人が一番多く 39.1%、次いで「友人・知人」29.0%、「親族」17.6%、「自分」11.9%、「親・兄弟姉妹」10.2%であった。

(2)介護の仕事への就労意識

①介護の仕事をしている（いた）人（以下「介護の仕事をしている人」）以外の介護の仕事への就労意識は、中学生の保護者では、介護の仕事をしてみたいと「強く思う」と答えた人は 0.7%、「思う」4.1%、「どちらともいえない」30.3%、「あまりそう思わない」39.5%、「思わない」25.5%であった。

高校生の保護者では、介護の仕事をしてみたいと「強く思う」と答えた人は 0.6%、「思う」3.9%、「どちらともいえない」30.5%、「あまりそう思わない」40.4%、「思わない」24.5%であった。

②介護の仕事をしてみたいと思う理由（表７）

中学生の保護者では「人と関わるのが好きだから」「自分の個性や適性をいかせるから」と答えた人が一番多く 53.8%、次いで「人や社会の役に立つ仕事だと思うから」「やりがいのある仕事だと思うから」「国家資格や専門性をいかせる仕事だから」「将来性がある仕事だから 」が 46.2%であった。

高校生の保護者では、「人と関わるのが好きだから」が一番多く 75.0%、次いで「人や社会の役に立つ仕事だと思うから」66.7%、「やりがいのある仕事だと思うから」62.5%であった。

表７　介護の仕事をしてみたいと思う理由、してみたくないと思う理由：保護者　　単位（%）

| | してみたいと思う理由 | | してみたくないと思う理由 | |
|---|---|---|---|---|
| 中学生保護者 | 1人と関わるのが好きだから | 53.8 | 1自分には向いていないと感じるから | 55.7 |
| | 1自分の個性や適性をいかせるから | 53.8 | 2ほかについているから | 40.9 |
| | 3人や社会の役に立つ仕事だと思うから | 46.2 | 3労働条件がよくないから | 31.3 |
| | 3やりがいのある仕事だと思うから | 46.2 | 4人と関わるのが好きでない | 4.5 |
| | 3国家資格や専門性をいかせる仕事だから | 46.2 | 5やりがいがないと思うから | 4.0 |
| | 3将来性がある仕事だから | 46.2 | | |
| 高校生保護者 | 1人と関わるのが好きだから | 75.0 | 1自分には向いていないと感じるから | 55.5 |
| | 2人や社会の役に立つ仕事だと思うから | 66.7 | 2ほかについているから | 40.6 |
| | 3やりがいのある仕事だと思うから | 62.5 | 3労働条件がよくないから | 29.3 |
| | 4国家資格や専門性をいかせる仕事だから | 25.0 | 4よくわからないから | 9.0 |
| | 5まわりに介護の仕事をしている人がいるから | 16.7 | 5人と関わるのがあまり好きでないから | 6.2 |

③介護の仕事をしてみたいと思わない理由（表７）

中学生の保護者では「自分には向いていないと感じるから」と答えた人が一番多く 55.7%、次いで「ほかについているから」40.9%、「労働条件がよくないから」31.3%であった。

高校生の保護者では、「自分には向いていないと感じるから」と答えた人が一番多く 55.5%、次いで「ほかについているから」40.6%、「労働条件がよくないから」29.3%であった。

**(3)介護の仕事のイメージと子どもが介護の仕事をしてみたいと希望した場合の対応**

①子どもが介護の仕事をしてみたいと希望した場合、中学生の保護者では「勧めたい」と答えた人が 0.6%、「子どもが希望するのであれば勧める」79.0%、「子どもの希望でもあまり勧めたくない」13.5%、「勧めない」6.9%であった。

高校生の保護者では、「勧めたい」と答えた人が 2.0%、「子どもが希望するのであれば勧める」72.8%、「子どもの希望でもあまり勧めたくない」15.8%、「勧めない」9.4%であった。

②介護の仕事のイメージ(表８)

介護の仕事のイメージについて「思う」(「強くそう思う」＋「思う」）と肯定的な意見が多かったのは、「就職先に困らない」で中学生の保護者 70.3%、高校生の保護者 71.6%、「資格や専門性がいかせる」で中学生の保護者 73.3%、高校生の保護者 68.5%、「やりがいがある」で中学生の保護者 71.9%、高校生の保護者 67.8%、「将来性がある」で中学生の保護者 48.8%、高校生の保護者 49.4%であった。「思わない」(「あまり思わない」＋「思わない」）が多かったのは、「給料・休みの条件が良い」で中学生の保護者 66.9%、高校生の保護者 63.9%、「勤務時間の条件がよい」で中学生の保護者 60.3%、高校生の保護者 57.0%、「社会的評価が高い」で中学生の保護者 32.3%、高校生の保護者 29.2%であった。

**表８　介護の仕事のイメージ：保護者**　　単位(%)

| | 中学生の保護者 | | | | | | 高校生の保護者 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | n | 強くそう思う | 思う | どちらともいえない | あまり思わない | 思わない | n | 強くそう思う | 思う | どちらともいえない | あまり思わない | 思わない |
| 将来性がある | 658 | 12.4 | 36.4 | 38.2 | 9.7 | 3.3 | 330 | 13.4 | 36.0 | 35.5 | 11.1 | 4.0 |
| 勤務時間等の条件がよい | 656 | 0.9 | 3.9 | 34.9 | 39.8 | 20.5 | 332 | 0.6 | 4.7 | 37.7 | 39.8 | 17.2 |
| 資格や専門性がいかせる | 654 | 14.7 | 58.6 | 20.7 | 4.2 | 1.8 | 333 | 13.6 | 54.9 | 23.9 | 6.4 | 1.2 |
| 給料・休みの条件が良い | 654 | 0.9 | 3.6 | 28.5 | 45.3 | 21.6 | 333 | 0.6 | 3.1 | 32.4 | 44.6 | 19.3 |
| 就職先に困らない | 654 | 20.6 | 49.7 | 25.5 | 3.6 | 0.6 | 330 | 22.8 | 48.8 | 22.9 | 4.3 | 1.2 |
| 社会評価が高い | 654 | 7.3 | 28.1 | 32.3 | 25.4 | 6.9 | 331 | 7.3 | 28.7 | 34.8 | 23.1 | 6.1 |
| 職場の雰囲気が良い | 657 | 0.6 | 16.6 | 60.4 | 17.2 | 5.1 | 331 | 1.1 | 11.6 | 66.4 | 18.1 | 2.9 |
| やりがいがある | 653 | 16.0 | 55.9 | 21.8 | 5.4 | 0.9 | 331 | 14.7 | 53.1 | 25.7 | 5.1 | 1.4 |

③保護者の介護のイメージと子どもが介護の仕事を希望した場合の対応（クロス集計）(表９)

介護の仕事に「やりがいがある」「社会的評価が高い」「資格や専門性がいかせる」「将来性がある」と思う（「強く思う」＋「思う」）保護者はそれ以外（「どちらともいえない」＋「あまり

思わない」＋「思わない」）の保護者に比べ、子どもが介護の仕事をしたいと話した時に勧める割合が 0.1%の水準で有意な差があった

表９　介護の仕事のイメージと子どもが介護の仕事を希望した場合の対応

| | | | 子どもが介護の仕事希望 | | | $\chi^2$ | P |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 勧める | それ以外 | 計 | | |
| やりがいがある | 思う | 人数 | 561 | 120 | 681 | 43.542 | *** |
| | | % | 82.4 | 17.6 | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 191 | 112 | 303 | | |
| | | % | 63.0 | 37.0 | 100.0 | | |
| 職場の雰囲気がよい | 思う | 人数 | 115 | 25 | 140 | 2.967 | n.s |
| | | % | 82.1 | 17.9% | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 640 | 208 | 848 | | |
| | | % | 75.5 | 24.5 | 100.0 | | |
| 社会評価が高い | 思う | 人数 | 301 | 52 | 353 | 24.134 | *** |
| | | % | 85.3 | 14.7 | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 452 | 181 | 633 | | |
| | | % | 71.4 | 28.6 | 100.0 | | |
| 就職先に困らない | 思う | 人数 | 546 | 154 | 700 | 3.349 | n.s |
| | | % | 78.0 | 22.0 | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 206 | 78 | 284 | | |
| | | % | 72.5 | 27.5 | 100.0 | | |
| 給料・休みの条件が良い | 思う | 人数 | 33 | 6 | 39 | 1.555 | n.s |
| | | % | 84.6 | 15.4 | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 720 | 228 | 948 | | |
| | | % | 75.9 | 24.1 | 100.0 | | |
| 資格や専門性がいかせる | 思う | 人数 | 566 | 126 | 692 | 38.723 | *** |
| | | % | 81.8 | 18.2 | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 187 | 108 | 295 | | |
| | | % | 63.4 | 36.6 | 100.0 | | |
| 勤務時間等の条件が良い | 思う | 人数 | 42 | 9 | 51 | 1.084 | n.s |
| | | % | 82.4 | 17.6 | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 712 | 225 | 937 | | |
| | | % | 76.0 | 24.0 | 100.0 | | |
| 将来性がある | 思う | 人数 | 414 | 71 | 485 | 43.604 | *** |
| | | % | 85.4 | 14.6 | 100.0 | | |
| | それ以外 | 人数 | 338 | 163 | 501 | | |
| | | % | 67.5 | 32.5 | 100.0 | | |

注）***P<.001　n.s:not significant

(4)介護の仕事をしている保護者としていない保護者の介護の仕事へのイメージ（表 10）

①介護の仕事をしている保護者としていない保護者で介護の仕事のイメージに差があるか分析した結果は表 10 のとおりである。

表 10　介護の仕事をしている保護者としていない保護者の介護の仕事へのイメージ

| | やりがいがある | | 職場の雰囲気が良い | | 社会的評価が高い | | 就職先に困らない | | 給料・休みの条件が良い | | 資格や専門性がいかせる | | 勤務時間等の条件が良い | | 将来性がある | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 思う | それ以外 | 思う | それ以外 | 思う | それ以外 | 思う | それ以外 | 思う | それ以外 | 思う | それ以外 | 思う | それ以外 | 思う | それ以外 |
| 介護の仕事をしている | 79.3 | 20.7 | 26.3 | 73.7 | 21.4 | 78.6 | 80.3 | 19.7 | 7.7 | 92.3 | 77.8 | 22.2 | 9.4 | 90.6 | 43.6 | 56.4 |
| 介護の仕事をしていない | 67.9 | 32.1 | 12.5 | 87.5 | 37.7 | 62.3 | 69.9 | 30.1 | 3.4 | 96.6 | 69.1 | 30.9 | 4.6 | 95.4 | 49.9 | 50.1 |
| $\chi^2$ | 6.298 | | 16.135 | | 12.033 | | 5.478 | | 4.894 | | 3.723 | | 4.873 | | 1.668 | |
| P | * | | *** | | *** | | * | | * | | n.s | | * | | n.s | |

注)*P＜.05, ***P＜.001, n.s:not significant

介護の仕事をしている保護者はしていない保護者に比べ、「職場の雰囲気がよい」「社会的評価が高い」と答えた人で 0.1%、「やりがいがある」「就職先に困らない」「給料・休みの条件が良い」「勤務時間の条件がよい」で５%の水準で有意な差があった。「社会的評価が高い」というイメージは、仕事をしていない保護者の方がしている保護者より高いと思う人の割合が多かった。「資格や専門性がいかせる」「将来性がある」については仕事をしている保護者としていない保護者との間で差がなかった。

②介護の仕事をしている保護者では、介護の仕事に「やりがいがある」「将来性がある」と思う保護者の方がそれ以外の保護者に比べ、子どもが介護の仕事をしたいと話した時に勧める割合が 0.01%の水準で有意な差があった。

介護の仕事をしていない保護者では、「やりがいがある」「社会的評価が高い」「資格や専門性をいかせる」「将来性がある」と思う保護者がそれ以外の保護者に比べ、子どもが介護の仕事を希望した場合に勧める割合が 0.01%の水準で有意な差があった。

表 11　介護の仕事のイメージと子どもが介護の仕事を希望した場合の対応：介護の仕事をしている保護者としていない保護者別

| | | 介護の仕事をしている保護者 | | | | | 介護の仕事をしていない保護者 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 子どもが介護の仕事希望 | | | $\chi^2$ | P | 子どもが介護の仕事希望 | | | $\chi^2$ | P |
| | | 勧める | それ以外 | 計 | | | 勧める | それ以外 | 計 | | |
| やりがいがある | 思う | 76 | 16 | 92 | 19.779 | *** | 485 | 104 | 589 | 31.147 | *** |
| | それ以外 | 9 | 15 | 24 | | | 182 | 97 | 279 | | |
| 職場の雰囲気がよい | 思う | 26 | 5 | 31 | 2.569 | n.s | 89 | 20 | 109 | 1.586 | n.s |
| | それ以外 | 60 | 27 | 87 | | | 580 | 181 | 761 | | |
| 社会評価が高い | 思う | 21 | 4 | 25 | 2.061 | n.s | 280 | 48 | 328 | 21.389 | *** |
| | それ以外 | 64 | 28 | 92 | | | 388 | 153 | 541 | | |
| 就職先に困らない | 思う | 70 | 24 | 94 | .796 | n.s | 476 | 130 | 606 | 2.962 | n.s |
| | それ以外 | 15 | 8 | 23 | | | 191 | 70 | 261 | | |
| 給料・休みの条件が良い | 思う | 7 | 2 | 9 | .129 | n.s | 26 | 4 | 30 | 1.703 | n.s |
| | それ以外 | 78 | 30 | 108 | | | 642 | 198 | 840 | | |
| 資格や専門性がいかせる | 思う | 66 | 25 | 91 | .003 | n.s | 500 | 101 | 601 | 44.842 | *** |
| | それ以外 | 19 | 7 | 26 | | | 168 | 101 | 269 | | |
| 勤務時間等の条件が良い | 思う | 10 | 1 | 11 | 2.037 | n.s | 32 | 8 | 40 | .240 | n.s |
| | それ以外 | 75 | 31 | 106 | | | 637 | 194 | 831 | | |
| 将来性がある | 思う | 46 | 5 | 51 | 14.009 | *** | 368 | 66 | 434 | 31.394 | *** |
| | それ以外 | 39 | 27 | 66 | | | 299 | 136 | 435 | | |

注)***P＜.001, n.s:not significant

### (5)保護者の介護の仕事に対するイメージ(自由記載)

介護の仕事に対するイメージの自由記載を、介護の仕事をしている保護者としていない保護者にわけユーザーローカル テキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/）により分析した結果は図２、図３のとおりである。

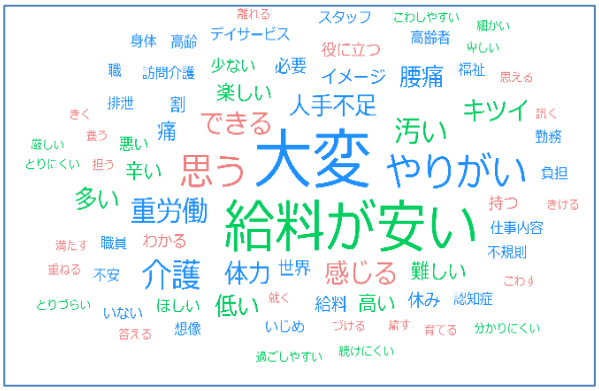


図２介護の仕事をしている

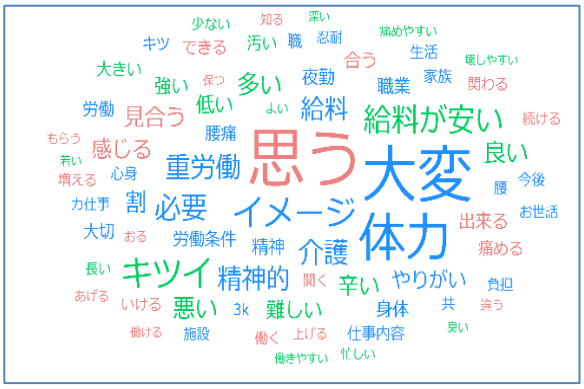


図３介護の仕事をしていない

介護の仕事をしている保護者では、「大変」「給料が安い」「やりがい」の出現頻度が高くなっている。介護の仕事をしていない保護者では、「思う」「大変」「体力」「イメージ」「キツイ」の出現頻度が高くなっている。

次に、介護の仕事をしている保護者としていない保護者で、特徴的な単語と一般的な単語にわけて分析したところ、介護の仕事をしている保護者に多い単語として、「こわす」「やりがい」「人手不足」があがった。介護をしていない人に多い単語としては、「精神」「キツイ」「体力」「忙しい」「イメージ」等があがった。

また、ポジティブな単語とネガティブな単語にわけて分析したところ、ポジティブな単語では、介護の仕事をしている人で「楽しい」「わかる」、介護の仕事をしていない人で「良い」が抽出された。

## ４　中高生の介護の仕事への関心及び就労意識に影響を及ぼす要因

### (1)介護の仕事への関心(表 12)

中高生への介護に仕事への関心に影響を及ぼす要因について分析した結果は表 12 のとおりである。

ダミー変数を作成し、介護の仕事への関心に関係があった「身のまわりで介護を受けている人」「身のまわりの世話」「介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設等での職場体験」「介護の仕事への就労意識」を強制投入し、次に「介護のイメージ」7 項目をはじめその他の項目をステップワイズ法で投入し重回帰分析を行った。その結果、中高生の介護の仕事への関心に影響を及ぼす要因としては弱いが「身のまわりの世話の経験」「身近に介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設での職場体験等」「介護の仕事への就労意識」、保護者の「介護の仕事のイメージ：給料等の条件が良い」があった。

表 12　中高生の介護の仕事への関心を説明変数とする重回帰分析結果

| 説明変数 | β | | Γ | |
|---|---|---|---|---|
| 身のまわりの世話の経験ダミーa) | .071 | * | .120 | ** |
| 身のまわりで介護を受けている人の存在ダミー（子）b) | .031 | | .130 | ** |
| 身近に介護の仕事をしている人の存在ダミー(子) c) | .113 | *** | .155 | ** |
| 福祉・介護施設での職場体験等ダミーd) | .064 | * | .116 | ** |
| 介護の仕事への就労意識ダミーe) | .474 | *** | .495 | ** |
| 身のまわりで介護を受けている人の存在ダミー（親）f) | -.076 | * | -.048 | |
| 介護の仕事のイメージ・給料等の条件がよいダミーｇ) | .060 | * | -.018 | |
| $R^2$ | .277 | *** | | |
| Adj.$R^2$ | .271 | | | |
| N | 858 | | | |

注）*P＜.05、**P＜.01,***P＜.001　β：標準変回帰係数　Γ：相関係数

a)身のまわりの世話の経験ダミー:したことがあるに「1」、したことがない「0」を割り当てた

b)身のまわりの介護を受けている人の存在ダミー(子):家族や親せきにいる・知り合いにいるに「1」、いない・わからないに「0」を割り当てた

c)身近に介護の仕事をしている人の存在ダミー(子):いるに「1」、いない・わからないに「0」を割り当てた

d)福祉・介護施設での職場体験等ダミー:あるに「1」、ないに「0」を割り当てた

e)介護の仕事への就労意識ダミー:強く思う・思うに「1」、それ以外に「0」を割り当てた

f)身のまわりに介護を受けている人の存在ダミー(親):家族や親せきにいる・知り合いにいるに「1」、いない・わからないに「0」を割り当てた

g)介護の仕事のイメージ・給料等の条件がよいダミー:強く思う・思うに「1」、それ以外に「0」を割り当てた

## (2)介護の仕事への就労意識(表 13)

介護の仕事への就労意識に影響を及ぼす要因をみるため、同様に「介護の仕事への就労意識」の代わりに「介護の仕事への関心」を強制投入し重回帰分析を行った結果、中高生の介護の仕事への就労意識に影響を及ぼす要因としては弱いが「身のまわりで介護を受けている人の存在」「介護の仕事への関心」中高生の「性別」、保護者の「介護の仕事のイメージ：給料等の条件が良い」があげられた。

表 13　中高生の介護の仕事への就労意識を説明変数とする重回帰分析結果

| 説明変数 | β | | Γ | |
|---|---|---|---|---|
| 身のまわりの世話の経験ダミーa) | -.009 | | .089 | ** |
| 身のまわりで介護を受けている人の存在ダミー（子）b) | .091 | ** | .156 | ** |
| 身近に介護の仕事をしている人の存在ダミー(子) c) | -.024 | | .076 | * |
| 福祉・介護施設での職場体験等ダミーd) | .009 | | .085 | * |
| 介護の仕事への関心ダミーe) | .478 | *** | .495 | ** |
| 子性別ダミーf) | -.064 | * | -.135 | ** |
| 介護の仕事のイメージ・給料等の条件がよいダミーg) | .065 | * | .055 | |
| $R^2$ | .263 | *** | | |
| Adj.$R^2$ | .257 | | | |
| N | 858 | | | |

注）*P＜.05、**P＜.01,***P＜.001　β：標準変回帰係数　Γ：相関係数

a)身のまわりの世話の経験ダミー:したことがあるに「1」、したことがない「0」を割り当てた

b)身のまわりの介護を受けている人の存在ダミー(子):家族や親せきにいる・知り合いにいるに「1」、いない・わからないに「0」を割り当てた

c)身近に介護の仕事をしている人の存在ダミー(子):いるに「1」、いない・わからないに「0」を割り当てた

d)福祉・介護施設での職場体験等ダミー:あるに「1」、ないに「0」を割り当てた

e)介護の仕事への関心ダミー:とてもある・あるに「1」、それ以外に「0」を割り当てた

f)子性別ダミー:男性に「1」、それ以外に「0」を割り当てた

g)介護の仕事のイメージ・給料等の条件がよいダミー:強く思う・思うに「1」、それ以外に「0」を割り当てた

## Ⅴ　考察

### 1　中高生の介護の仕事への関心及び就労意識と環境

今回の調査で、介護の仕事に関心をもったきっかけとして中学生、高校生ともに第一に「高齢者・障害者が身近にいた」をあげており、また、「身のまわりに介護を受けている人がいる」「身のまわりの世話の経験」「身近に介護の仕事をしている人がいる」「福祉・介護施設等での職場体験がある」中高生はクロス集計でも介護の仕事の関心がある割合が高く、白井がまとめた図１の先行研究のまとめと一致している。今回、$\chi^2$検定でも統計的に有意な差があった。これらは中高生が身のまわりに介護を受けている人がいる、その方のお世話をできる環境がある、家族や身近に介護の仕事をしている人がいる、福祉・介護施設等でに職場体験ができるといった環境要因が存在すると考えられる。

一方、介護の仕事への就労意識については、高校生ではこれらの項目に有意な差があったが中学生では「介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設等での職場体験」において有意な差がなく、他の先行研究に比べ介護の仕事への関心や就労意識が低かった。

また、介護の仕事への関心と就労意識の重回帰分析の結果、「身のまわりで介護の仕事をしている人の存在」は中高生の介護の仕事への関心に弱いが影響を与えていたが、就労意識には影響を与えていなかった。このことは、介護の仕事をしている人の存在がプラスにもマイナスにも影響を与えていると考えられる。地域特性、実施時期、対象も考えられるが、ここ数年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、「福祉・介護施設等での職場体験」は減少し、地域の子どもは地域で育てるという理念のもと中学 2 年生で実施される「14 歳の挑戦」[注1)]も中止になっていること、福祉・介護施設で働く職員のイメージが悪くなったことから中高生を取り巻く環境の大きな変化が調査結果に影響していると考えられる。

以上のことから、中高生が介護の仕事への関心を高め、さらに就労意識を高めていくには、「環境」が大切であり、介護人材確保を単に人材確保政策の中でだけ捉えていくのではなく、地域共生社会推進の中で考えていくことが大切である。富山県教育委員会では地域の子どもは地域で育てるという理念のもと「14 歳の挑戦」を実施しているが、ボランティア活動も含め中高生が学校行事だけでなく、地域を基盤に日常生活あるいは地域社会の中で高齢者や障害者と接する機会の確保や、介護の仕事をしている人や職場に触れることができる仕組みづくりが必要である。

### 2　正しい情報提供

中高生が介護の仕事をしてみたくないと思う理由として中学生では「自分に向いていないと感じるから」(59.7%)、「他につきたい仕事があるから」(53.8%)、高校生では「他につきたい仕事があるから」(56.3%)、「自分に向いていないと感じるから」(51.4%) と半数を占め、他の先行研究より割合が高かった。さらに、他の先行研究では割合が高くない「よくわからないから」という理由が、中学生では 32.7%、高校生では 11.0%を占めていた。

これらのことは、中高生は、特にコロナ禍で福祉・介護施設等での職場体験等が少ないこ

とに加え、介護の職場がクラスターの発生等で大変であるといった情報が大きく取り上げられたことから、よくわからないまま介護の仕事のイメージをつくりあげ、自分に向かないと思うようになっているのではないかと推察される。これは、「祖父母と同居している」「身近に介護の仕事をしている人がいる」「福祉・介護施設での職場体験等の経験がある」中高生の方が、介護の仕事への関心が高く、就労意識が高いことからも推察される。

また、介護の仕事をしていない保護者で介護の仕事をしてみたいと思う保護者は 5%未満で、介護の仕事をしてみたくない理由の 1 位は「自分に向いていないと感じるから」からで、中高生の保護者ともに 5 割を超えていた。テキストマイニングの分析では、介護の仕事をしていない保護者では、「思う」「大変」「体力」「イメージ」「キツイ」の単語の出現頻度が高く、実際の記述内容をみても「～のイメージがある」「～と思う」の記述が多かったことから、仕事の内容や対価と比較してというよりは、一般的な介護のイメージで負の印象をもちやすくなったのではないかと推察される。一方、介護の仕事に対し「やりがいがある」「資格や専門性がいかせる」「将来性がある」と肯定的なイメージをもつ保護者はそうでない保護者に比べ子どもが介護の仕事をしたいと話した時に有意な差がでている。

以上のことから、介護の仕事について中高生及び保護者への正しい情報提供が必要と考えられる。

### 3　加算に頼らない介護職の処遇改善と専門性の確保

今回の調査では、介護の仕事のイメージで「給料・休みの条件」や「勤務時間の条件」が良いと思わない保護者が約 6 割であり、介護の仕事をしている保護者としていない保護者でイメージを比べたところ 5%の水準で有意な差があり、実際に介護の仕事をしていない保護者の方が労働条件が悪いと思う傾向がでていた。中高生の介護の仕事への関心に影響を及ぼす要因に弱いが親の介護のイメージとして給料等の条件が抽出されており、介護の仕事をしている保護者の自由記載に「給料が安い」がよく記載されていた。

厚生労働省は、総合的な介護人材確保対策の一番に介護職員の処遇改善をあげ、他職種と遜色ない水準へあげることを目標にこれまで処遇を改善に取り組んできた。しかしながら、「令和 3 年度賃金構造基本統計調査」では全職種で月額 307,400 円(43.4 歳、勤続年数 12.3 年）に対し、福祉施設介護職員は月額 250,600 円(43.8 歳、勤続年数 7.6 年)となっており、他職種との差が大きい。一方、「令和 3 年度介護従事者処遇状況等調査結果の概要」では、介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ）～（Ⅱ）を取得している事業所の介護職員の平均給与額は 323,190 円（令和 3 年 9 月）で、介護福祉士は 334,510 円（平均勤続年数 9.5 年）で、処遇改善加算を取得している事業所は取得していない事業所に比べ高い傾向があった。処遇改善加算を取得していない理由としては、「事務事業が煩雑」(49.5%)、「利用者負担の発生」(29.4%)、「対象者の制約のため困難」(26.7%) となっていた。

単純に数字を比較できないが、数字が一般の人に与えるインパクトが大きいことを十分考える必要があること、根深い「労働に対し給料が安い」というイメージを払拭するには精神

論や処遇改善を加算に頼るだけでなく基本的な部分で保証していく仕組みが必要と考える。

高校生や保護者が介護の仕事をしてみたい理由に「国家資格や専門性をいかせる仕事だから」があげられていることから、国民一人一人が将来の介護の人材確保のために自分達がどこまで負担するかを真剣に考えるとともに、介護職員の中でも国家資格である介護福祉士の専門性の確立、養成教育の基盤整備に早急に抜本的に取り組む時期にきていると考える。

## Ⅵ　まとめ

人口減少・超高齢社会により労働者人口そのものが大きく減少していく中で、介護人材を確保していくことは、容易ではない。

本研究では、①「身近に介護を受けている人の存在」「身のまわりの世話の経験」「身近に介護の仕事をしている人の存在」「福祉・介護施設での職場体験の有無」で有意な差があり中高生は身のまわりの環境により、介護の仕事への関心や就労意識に影響を受けること、②介護の仕事のイメージが肯定的な保護者は子どもが介護の仕事を希望した場合に勧めることがわかった。

社会福祉実践の核概念は環境の中の人間であり、地域共生社会推進の鍵は地域を基盤としたケアと統合ケアである。今後の課題としては、介護人材を確保していくには、人材確保政策だけでなく子どもたちが置かれた環境にも視点をあて、子ども達が日常的な中で高齢者や障害者とふれあうことができる環境や介護の仕事をしている人や介護の職場に触れる仕組みづくりを地域を基盤に取組んでいくこと、正しい情報提供の大切さ、加算に頼らない介護職の処遇改善と国家資格である介護福祉士の専門性の確立が示唆された。

本研究は、K地域に限定したもので一般化には限界があるが、介護について理解し、応援し、そして自分もできることに参画していく仕組み、学校や保護者だけでなく、地域全体の理解を推進していくことで、変革が起きると考えられる。

## 注）

1）14 歳の挑戦は、中学 2 年生（義務教育学校 8 年生を含む）が 5 日間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、生涯にわたってたくましく生きる力を身に付けることを目的としたもの。介護福祉士を目指した理由として「14 歳の挑戦で介護の仕事が良いと思った」という声が多い。

## 引用文献

藤沢緑子(2012)「介護の仕事に対する高校生の意識」日本赤十字秋田看護大学紀要・日本赤十字秋田短期大学紀要　第 17 号

広島県社会福祉協議会（2015）「福祉・介護の仕事に関する意識調査報告書」

厚生労働省（2007）「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための措置に関する基本的な

指針」の見直しについて
厚生労働省(2020)「介護分野をめぐる状況について」社会保障審議会介護給付費分科会資料 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_10184.html　2023 年 1 月 7 日確認
厚生労働省(2020)「第 8 期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02977.html　2023 年 1 月 7 日確認
厚生労働省(2022)「令和 3 年度賃金構造基本統計調査」 https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/chingin/kouzou/z2021/index.html 2023 年 2 月 28 日確認
厚生労働省(2022)「令和 3 年度介護従事者処遇状況等調査結果の概要」 https://www.mhlw.go.jp /toukei/saikin/hw/kaigo/jyujisya/21/index.html 2023 年 2 月 20 日確認
三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング（2017)「＜地域包括ケア研究会＞地域包括ケア研究会報告書―2040 年に向けた挑戦―」地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業報告書
富山県教育委員会「社会に学ぶ『14 歳の挑戦』」 https://www.pref.toyama.jp/3002/14saityousen.html　2023 年 2 月 27 日確認
富山短期大学健康福祉学科（2022）富山県委託とやま福祉人材確保・応援プロジェクト事業―地域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業―「中高生および保護者の介護に関する意識調査報告書（高校生編)」
富山短期大学健康福祉学科（2022）富山県委託とやま福祉人材確保・応援プロジェクト事業―地域での介護の仕事魅力アップ推進研究モデル事業―「中高生および保護者の介護に関する意識調査報告書（中学生編)」
富山労働局(2022)「富山県の雇用情勢（令和 4 年 11 月)」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html　2023 年 1 月 7 日確認
筒井孝子（2014)「地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略―integrated care の理論とその応用」,中央法規

**参考文献**

アクサ生命（2019)「介護に関する親と子の意識調査 2019」
青柳育子(2008)「高校生の介護意識の実態と課題－高等学校 3 校のアンケート調査から－」日本生涯教育学会論集 29
朝倉和子ら（2016)「中高生の高齢者介護・福祉分野へのイメージと 社会貢献意識との関係性の研究」東京家政学院大学紀要
独立行政法人 労働政策研究・研修機構（2015)「介護人材確保を考える」
人と仕事研究所（2019)「親の子供に対する就職期待とキャリア教育に関する調査（小学校 1 年生～中学校 3 年生)」株式会社アイデム
人と仕事研究所（2020)「社会人 2～4 年目に聞く子供の頃のキャリア教育と就職活動に関する調査」株式会社アイデム

人と仕事研究所（2021）「子供のキャリア観と親の働く姿に関する調査」株式会社アイデム
一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（2019）「第 9 回『高校生と保護者の進路に関する意識調査』2019 報告書
石川久展ら（2018）「高校生の福祉の仕事に対するイメージや就職意識の実態－兵庫県の高校生に対する実態調査の結果をもとに－」関西学院大学「Human Welfare」第 10 巻第 1 号
株式会社リクルートキャリア（2014）HELPMAN JAPAN「介護サービス業 職業イメージ調査 2014」
株式会社リクルートキャリア（2019）HELPMAN JAPAN「介護職非従事者の意識調査」
三重県福祉人材センター（2019）「福祉の仕事に関する意識調査報告書」
長崎県福祉保健部福祉保健課（2013）「介護の仕事のイメージについてのアンケート」
佐藤英晶(2018) 「福祉人材確保に関する研究試論 － 介護人材の確保を中心に」帯広大谷短期大学紀要（第 55 号）
埼玉福祉保育医療専門学校(2015)介護人材確保に関する研究 https://www.scw.ac.jp/archives/sotuken/16354/　2023 年 1 月 7 日確認
ソニー生命（2021）中高生が思い描く将来についての意識調査 2021
津田理恵子(2010)「学生の介護職のイメージ―介護福祉実習体験の違いによる意識の比較―」厚生の指標　第 57 巻第 8 号
吉村浩美（2008）「学生たちへのアンケートからみる介護の課題と方向性」佐賀短期大学生活福祉学科
ユーザーローカル テキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/）2023 年 1 月 7 日確認